学校番号	119

令和３年度　芸術科［美術］

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の美術１　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術の授業では、作品の制作と鑑賞を行います。その時、もちろん自分の作品を完成させることや、鑑賞した作品について感じる・考えることが目標になります。ただ、その活動の中から、生活の他の場面でも活きてくる新しい視点を見つけられればより良いと思っています。

新しい視点を見つけるというのは、例えば、何かを観察して描写する中で、普段見えなかったその物の特徴に気付いたり、ある作品がどういう意図でデザインされたか考えることで、身の回りの様々な製品についてもどうしてその色や形なのか考えるようになったり、といったことです。

そのように、授業から自分の中に新しいものを取り入れるためには、本気で活動に取り組むことが必要です。本気になるために一番手っ取り早いのはその活動を楽しむことです。なので、もし興味が持てなかったり苦手だったりすることであっても、「やってみたら案外楽しいかもしれない」と思って、楽しみを自分で見つけ出すつもりで授業に臨む方が自分にとって得だと思います。

２　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して美術文化に対する理解を深め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。そして、表現活動を通じて自己の主体性と独自性を確認することで自己を肯定し、様々な対象や経験から豊かな美的体験を得られる感性を育むことで自らを取り巻く他者と世界を肯定して、それらを合わせて人生を肯定的に捉えて生きていくための力とする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを追求し、美術文化に関心を向け、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。	創造的な感性のもとに、想像力を働かせて主題を形成し、表現の構想を練っている。	創造的な表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫しつつ完成度を追求して表している。	美術文化への理解を深め、美術とそれにつながる自然や社会、生活について幅広く考え、それらの美しさや面白さを創造的に受容している。
評価方法	授業中の様子 ワークシート 作品	作品	作品	ワークシート 授業中の様子

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	クロッキー～観察と描写の練習～	【絵画・彫刻】 人物モデルや自分の手など様々なモチーフを短時間でクロッキーし、描写の練習をする。 ・最初の授業の導入として扱う他、各授業時間で短時間ずつ、継続して一年間行う。 ・線の引き方やあたりの取り方・細部の見方など、個別の技術を分けて指導し、上達を図る。	○		○		a:指導した技法や観点を積極的に取り入れ、モチーフを写し取るため工夫をしている。 c:よくモチーフを観察し、その存在感を描き出せている。	作品 活動の様子
	虹の樹を作ろう	【デザイン】【鑑賞】 ①虹の花 12分割色相環を元に花のような形をデザインし、それをアクリルガッシュで塗り分けて色面構成する。 ・12色相環に当てはまる色を用いて塗り、様々な色相の色を使う経験を初めにしておく。 ②虹の葉 葉を象った塗り絵を、任意の3色の混色で塗り分ける。 ・限られた色を混ぜて多様な色を作る練習をする。 ・時間があれば作品を複数点作ってもよい。 ③虹の樹を作る 壁面に樹の幹を象った紙を貼り、その周囲に①と②の作品を貼って、クラス全員で一本の花と葉を付けた樹を作る。 ・全員の合作を最後に全員で鑑賞する。	

2学期	作品鑑賞シート	【鑑賞】 教科書に載っている作品の中から、好きな作品と、「なぜこれが教科書に載るほどすごいのか」というようなツッコミを入れたい作品を合わせて3つ以上選び、それぞれ、なぜ好きか、どこにツッコみたいのか、という感想を書く。 ・感想を発表し、教員がコメントを返すという形で理解を共有・深化させ、美術への興味を促進する。	○			○	a:主体的に作品について考えたり調べたりして記述している。 d:創造的で開かれた感性をもって作品を鑑賞できている。 また、一つの作品に対しても多様な見方や色々な背景が存在することを理解できる。	ワークシート
	石膏彫刻 ～やわらかい形～	【絵画・彫刻】 石膏の直方体を彫刻刀で彫り、イメージした形を作る。 ・「やわらかい形」をテーマに、直線的で堅い素材をいかに加工してやわらかいイメージを表すかを工夫する。 ・油粘土で構想した形を作って多方向から描写し、立体の形状を把握・想像する練習をする。 ・導入として彫刻作品をいくつか鑑賞し、立体形状の特徴とイメージの具象・抽象について理解する。	○	○	○		a:思い通りに作りづらい立体の制作を慎重に粘り強く進め、イメージを追求できている。 b:テーマに対応して独創的な形状を構想できている。 また、想像力を働かせて３次元的な形をイメージできている。 c:彫刻刀の使い方を身に付け、安全に注意して作業している。 また、慎重かつ根気強く工具を駆使してイメージ通りの整った形に仕上げられている。	作品
	オノマトペのデザイン	【デザイン】【鑑賞】 オリジナルのオノマトペ（擬音語および擬態語）を考え、その文字の色と形をイメージしてアクリルガッシュで表す。 ・クラスの全員が考えたオノマトペを一度集めてランダムに配り直し、自分が考えたオノマトペと他の生徒が考えたオノマトペの2つを描く。他者の言葉からイメージを膨らませて自分の作品にする体験をする。 ・完成した作品を相互に鑑賞し、相互のイメージの違いを味わう。		○	○		b:実体のない言葉から想像を膨らませて魅力的な色と形を構想している。 c:自分のイメージを伝えるのにふさわしい色・形・質感などの要素を工夫して表している。	作品

3学期	手のデッサン	【絵画・彫刻】 自分の手をモチーフに鉛筆デッサンをする。	○		○		a:モチーフを逃さず写し取って再現しようとする意欲がある。 c:陰影や細部までよく観察して描写し、モチーフの立体感・質感を表現できている。	作品
	油絵の抽象画	【絵画・彫刻】【鑑賞】 油絵の導入として、油絵画材の使い方を試しながら、自由に抽象画を描く。 ・導入として抽象画を鑑賞し、抽象表現の歴史と意義について説明する。			○	○	c：油絵画材の使い方を身に付け、様々な描画方法を工夫している。 d:抽象画を鑑賞し、絵画のイメージを拡張できている。	作品
	手を油絵で描く	【絵画・彫刻】 自分の手をモチーフに油絵の具で描写する。 ・手のデッサンの作品も参考に手の形や細部の描写を考えつつ、色の要素が入る分さらに表現の幅をひろげていく。		○	○		b:手のポーズとサイズおよび手の色と背景色のバランスを考えて画面全体を構成している。 c:細部と全体をよく観察し、油絵画材の特徴と描画方法を理解して、モチーフを描写・表現している。	作品

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。